



2nd Neurological Disorders Summit への参加報告

生命環境科学系 博士課程 3年 相馬ミカ

「博士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受けて、2016年9月7～9日にかけてアメリカ合衆国・ボルチモアで行われた 2nd Neurological Disorders Summit (NDS) に参加した。NDSは神経疾患に携わる研究者や製薬企業、医療関係者などが最新の知見を発表し、幅広く意見交換を行う学術集会であり、アメリカだけでなく、世界中から参加者が集い、議論を交わした。

私は「Dysbindin-1, a schizophrenia-related protein, interacts with HDAC3」というタイトルでポスター発表を行った。統合失調症の患者の脳では減少している dysbindin-1 がヒストン脱アセチル化酵素 HDAC3 と結合しており、その結合により HDAC3 の下流シグナルが変化することで、統合失調症の症状が生じるのではないかという内容で、多くの研究者に興味をもっていただき、意見をいただいた。

他の発表はアルツハイマー病やパーキンソン病などの主要な神経疾患から共感覚などの現象まで多岐にわたり、参加者も分子生物学系の研究者はもちろん、認知科学系の研究者や臨床医などもおり、バラエティに富んだ内容で、自分の研究分野の最新の知見を得るとともに、神経疾患についていつもと異なる視点で見ることができ、刺激を受けた。また日本での研究生活で、英語で話す機会は多くないが、学会中は英語でコミュニケーションを取り、より英語力を高める必要性を感じ、今後精進していきたい。

今回は初めての国際学会への参加であったが、非常に良い経験であった。本学会で得た知識や視点を今後の研究に生かしていきたい。

